

2024.2.8 (木)
第28回例会
(通算3743回)

2023-2024年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2023-2024年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024年度
RI会長 ゴードン R. マッキナリー
第2500地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (叙別港 RC)

月間テーマ	平和と紛争予防／紛争解決月間
本日のプログラム	「年男多いに語る」(プログラム委員会)
次週例会	「会員卓話(須藤 隆昭君)」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：佐々木 裕章君
- 会員数 104名
- ビジター 第7分区ガバナー補佐 佐渡 正幸君・IM 実行委員長 平井 昌弘君
- ゲスト

会長の時間 後藤 公貴会長



皆さん、こんにちは。先週、2月1日の夜間例会『節分にちなんで』では皆さまの邪気がしっかり祓われたものと思います。

同時に、大変うれしい知らせで4名の新入会員をお迎えすることができました。例会後の二次会・三次会と多くのメンバーで4名の新入会員全員を囲んで「ロータリーとは」「釧路の商売とは」といったお話をさせていただきまして、親交が密にできたかなと思っております。残念ながら本日、4名とも欠席をしております。ぜひ皆さん、「最初が肝心」という言葉もありますのでお仕事とか普段からの交流の中で「一緒にロータリーに行こう」とか「ロータリーを気にかけてネ」の一言をかけていただきますことを願っておりますので、よろしく願い申し上げます。

さて、最近の新聞報道とか私の仕事を通じて「釧路との縁、ゆかりの深い全国の都市からの行き来と交流事業がひんぱんに行われていると感じさせていただいております。釧路市の友好都市とか姉妹都市とか、いくつの都市があるかご存知ですか。

気になって私、調べてみましたら、締結の古い順番に読み上げます。秋田県の湯沢市と姉妹都市。鳥取県

鳥取市と姉妹都市。これが昭和38年10月の同じ日に姉妹都市提携をしました。岡山県岡山市は観光交流都市。鹿児島県出水市は友好都市。山梨県都留市は友好都市。最も新しい徳島県那賀町が元々音別町と大塚製薬のつながりで元々の姉妹、合併をした後に友好都市提携となっております。

一方、釧路ロータリークラブに目を向けてみますと、皆さんご存知のとおり、姉妹クラブ締結は国外で台湾の台北中央ロータリークラブが唯一となっております。数年前に国内でも姉妹クラブ、または友好クラブの締結を考えてみてはどうかと議論されるようになりました。たしか一度、情報集会のネタになったことがあったと思っています。

皆さんご存知のとおり、ロータリークラブには世界大会というのがあっても、全国大会、要するに日本で大きな大会は開催されません。ですから釧路ロータリークラブが日本全国の都市にお邪魔をする機会がなかなか難しい事情があります。観光だけとは限りませんが、そういう友好クラブ・姉妹クラブの締結でお互いが、お互いの文化や歴史を知ること大切なお事だと思っております。今後、皆さまから「あそこ提携したらいいのでは」とか、逆に「ぜひ、姉妹クラブ・友好クラブの締結をしたい」という申し入れが来る可能性もそう遠い未来ではない気がしております。皆さまには、そういうことも頭の片隅に、どこか提携したらいいかイメージしながら、ロータリーを楽しむ材料に

していただけたらと思っております。

本日は『年男多いに語る』例会です。節目を迎えた4名の皆さまの決意・人となり・パーソナリティが聞ける例会となりますので本日も有意義で楽しい時間にしてまいりましょう。

本日も一日、どうぞよろしくお願い申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告になります。

先ほど、ガバナー補佐と平井実行委員長のお話と重複しますが、3月16日に開催されますIMについてです。釧路クラブからは全員登録する予定となっております。ぜひ、多くのメンバーで参加できればと思っております。ご案内は今週中に皆さまにご案内する予定です。皆さまのご参加をお願いいたします。

本日、確定申告用の領収書をお渡ししております。まだ受け取っていない方がおりましたら、帰りまでにお持ち帰りいただけますようお願いいたします。

『ロータリーの友』2月号の28ページに地区補助金を使った事業で去年行いました話が載っております。皆さま、内容は私が書いて、木下さんに確認いただいたら、ほぼ直されて私の文章ではなくなっているのですが、写真は私が撮ったものが使われておりますので2月号のご購読をよろしくお願いいたします。

以上、幹事報告となります。

ごあいさつ

第2500地区第7分区ガバナー補佐 佐渡 正幸君

皆さま、こんにちは。本年度第7分区のガバナー補佐を務めております釧路北ロータリークラブの佐渡です。今日は貴重な例会の時間をお借りして3月16日に開催しますIMについてご案内をさせていただければと思っております。



本年度、釧路市においては久々のIM開催となります。今年度のテーマとしては、青少年の奉仕にスポットを当てて進めたいと思っております。これからのロータリーのみならず、地域社会において、いかに青少年に奉仕し育成するかが非常に重要な課題と私は思っているところでは。

本年度のIMのテーマは『希望ある新時代を創造しよう。未来を担う新世代のために』と掲げさせていただきました。この「新」につきましては、『シン・ゴジラ』とかでカタカナの「シン」が使われていますが、新しい「新」のみならず、いろいろな漢字が当てはまると私は考えています。真実の「真」であったり、親密の

「親」であったり、あるいは伸びる「伸」であったり、さまざまな「しん」、いわゆる多様性のこれからの社会において、いろいろな「新時代」を皆さんと考え、そのテーマの中では青少年の育成で考えていきたいと思っている次第です。

本年度のIM登録料につきましては、従来は8,000円だったものを、ホテルの夕食代が上がっている関係で今回は1万円で開催させていただきますこと、そして、釧路クラブの皆さまには全員登録していただきますことを改めて感謝申し上げます、3月16日には多くの皆さまをお待ちしておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

詳細につきましては、IM実行委員長の平井からご報告させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

釧路北ロータリークラブIM実行委員長

平井 昌弘君



皆さん、こんにちは。このたびIM実行委員長を仰せつかった釧路北ロータリークラブの平井です。どうぞよろしくお願いいたします。

いま佐渡ガバナー補佐からお話がありましたとおり、来る3月16日土曜日、釧路プリンスホテルにて『インターシティ・ミーティング』を開催する運びとなりました。

今回のプログラムでは、3部構成で考えております。まず、1部では、当クラブの足立PDGから青少年に関する基調講演いただく予定です。既に皆さまのお手元にご発送させていただいていると思いますが、時間が30分から40分弱で、若干の変更があるかもしれません。そこだけ、ご理解をいただければと思います。2部については各クラブ会長様より、今年度行った青少年奉仕事業、また奉仕事業の報告をしていただきます。その後、メインの高校生を交えたパネルディスカッションを行う予定です。今回のパネルディスカッションでは湖陵高校、江南高校、商業高校、東高校の4校の1・2年生を対象にしたアンケートを今、集計しています。内容については、「今後の釧路の行く末」「自分の将来の夢」「釧路に戻って来たい」「釧路にどのような魅力があるか」など、釧路をどう考えているかの生の声を引き出そうというところが狙いでありませう。そこでロータリーを知ってもらうとか、奉仕活動を知ってもらうとか、そういった内容で進めて行こうと思っております。

コーディネーターは、まさにMr・コーディネーターの佐渡ガバナー補佐がおりますので素晴らしい内容に

なと思っています。また、いわゆるZ世代の下の世代からの生の声を聞ける場面が少ないと思っていますので、この機会を有意義にしていきたいと強く考えているところです。

また、友愛の広場では、昨年は白糠で開催しましたが、この釧路では4年ぶりで皆さん楽しみにしていると聞いております。われわれは余興のほうもしっかり設えて皆さまをお迎えできるようにIMを取り組んで行きたいと思っております。

今日は例会前の貴重な時間を頂戴しましてご案内させていただきました。3月16日、是非、たくさんのご参加をお願い申し上げて私からの挨拶に代えさせていただきます。

今日はありがとうございました。

■本日のプログラム■ 年男大いに語る

プログラム委員会 八幡 好洋委員長

プログラム委員会の八幡です。本日は『年男大いに語る』ということで4名の年男にお話を伺いたいと思います。



まず、はじめに、昭和51年生まれの東堂君、お願いいたします。

東堂 光春君



こんにちは。年男大いに語るということで、今年48歳になります東堂です。天方さんの貴重なご講演があるということですので、私は手短にお話させていただきたいと思っております。

48歳ということで、思えば24歳の時、出会い系サイトで妻に出会い、36歳で離婚の危機を迎え、48歳で別居で、夫婦円満という生活を送らせていただいております。まあ、今年はどうなるかわかりませんが夫婦円満に行きたいと思っております。

子どもは3人おります。長男は今年20歳になって東京にいます。次の娘が今年18歳で仙台の常盤木学園という過去サッカー日本一を3回取った強豪校の3年生です。先日、新人戦があったのですが10番というユニホームを着て、感動したのです。「常盤木10番」というのは巷では有名な背番号です。うまく行けばプロに行けるのではということまで来ています。

6月のインターハイを控えていて、そこで、宮城県代表になれば声がかかるだろうと言われていますが、予選で負けたら多分もう終わりだろうとなっています。娘も寮生活で大変な中、頑張っていて練習しておりますので応援して行きたいと思っております。

その下に、もう一人息子がおります。いま中三ですが、これもサッカーをやっています。この前、東海大札幌高校、昔の東海第四高校のキーパーの特待で合格が決まりました。なぜかこの息子もプロを目指していて身長は僕と同じくらいになって、これも高校2年生までに190センチメートルを超えればいいところくみたいと言われていて、多分無理だと思いますけれど一縷の望みをかけてサッカーに打ち込んでおります。

それで、妻も3年の札幌留年が決まりましたので、3年間、釧路の地でしっかりロータリー活動を頑張っていきたいと思っております。

そして、うちの会社は1月24日に会社設立50周年を迎えました。先代の頑張りでここまでやってこられたのですが、私としては100年企業を目指しての折り返しと思って、また新たなスタートを切ってやっております。目標にしていたのは、僕が社長になった時の平均年齢は55歳くらいだったのが、45歳くらいまで下げて後継をつくらうと決意して、これも先日、平均年齢45歳を突破しています。女性比率も今は30%を超えています。別に女好きではありません。女性の比率を増やして女性の社会進出を念頭に置いてやっております。やはり、出入りの激しい業界でありまして若手が入ってこないという業界ですが、しっかりYouTube、TikTokで踊って若手を獲得して行きたいと思っておりますので、皆さん、チャンネル登録をよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

川島 勝典君



皆さん、こんにちは。いつもお世話になっている川島です。私は今年の5月に入会させていただきました。今月で約9カ月が経過しま

す。それまでロータリークラブには縁もゆかりもなかったものですから、最初はすごく不安だったのですが、おかげさまで、皆さまのご指導もありまして少しはお役に立てているのかなという気がしております。これからもよろしくお願いいたします。

本題のほうですが、おとといの夕方に「なにか、話して欲しい」と言われたものですから、何を言ったらいいのか困って、ある人に相談したら、「今までの人生、

節目ごとにあったことを話せばいい」とアドバイスをいただきましたので、今日はそのような話をしたいと思います。

普段、何気なく生活をしてしていると、60歳といってもただ年を1つ取っただけという感覚しかありません。自分は勤め人で転勤もありますし、定年が65歳と設定されていますので、もう少し頑張らなければいけないと考えているわけです。ただ、人生の節目として還暦を迎えるということについて、改めて考えるといろいろな感情が湧いてきます。生まれた年を含めて6回目の年男となりますので、その節目・節目における感想と出来事を当時のことを思い浮かべながら述べてみたいと思います。

生まれた年の記憶は当然ありません。昭和39年にあった出来事としては、北海道の大きな出来事ではなくて、東京オリンピックが開催された年になります。それから12年後、12歳の時は昭和51年で小学校から中学校に上がる時でした。私は上川管内の当麻町という小さな田舎町で暮らしていて、その時の自分は60歳になった時にはどうなっているかなど想像していませんでした。当時は少年野球をやっていて、夢としては野球選手になれたらいいなどありふれた夢を描いておりました。また、どんな仕事に就きたいとか、そのような具体的なことは全く考えていませんでした。この年はあまりいい出来事がなくて、子どもながらにロッキード事件が世間を賑わせていたのを覚えています。北海道関連の出来事では、ソ連のミグ25が函館空港に強制着陸をしたのを鮮明に覚えております。

さらに12年が経って24歳の時は昭和63年です。既に現在の職場に就職して、札幌に勤務しておりました。この年に結婚したものですから、その時は今後の人生設計とかを自分なりに思いめぐらせていたのをよく覚えています。子どもを何人欲しいとか、いくつまでにマイホームを持つとか、いろいろ考えていたのですけれども、そのほとんどが実現されていません。この年の北海道に関わる出来事としては、青函トンネルが開通しています。

さらに12年が経って36歳の時、平成12年で勤務地は深川でした。就職してから18年経っていて一般職ではあったのですが、仕事のやり方やお客様の対応などはよく分かっていましたので、いま考えると一番油がのっていた時期だったと記憶しています。ただ、次はどこに転勤するかを常に気にして仕事をしていたのを覚えています。プライベートでは娘を二人もうけています。まだ二人は小さかったものですから、とても可愛がっていたのを覚えています。この年は西暦2000年で「2000年問題」を心配しながらの年明けでしたけれども、フタを開けてみると全く何もなかったです。全くではなかったかもしれないけど、大きな

問題はなくて胸をなでおろしたのを覚えています。北海道に関する出来事としては、有珠山が噴火しております。

それから12年後の48歳の時は、平成24年で勤務地は小樽でした。小樽はご存知のように釧路と同じ港町で歴史もある街です。とてもいい所で、釧路と同じくらいに私が好きな街なので、そこに通算12年以上住んでいたものですからすっかり馴染んでしまい、このまま永住しようかと考えたこともありました。そうはならなかったのですけれど、その時の職場での立場は係長で初めての管理職で、とてもやりがいはあったのですけど大変さも思い知らされた時期です。どうすれば部下をうまく動かせるか、この仕事は自分でやっちゃったほうが早いのではと思い悩んでいたのをよく覚えています。この年の出来事としては、北海道に関わることはなかったのですけれど、東京スカイツリーが開業しています。

そして60歳の今年ですが、いきなり大きな地震があったり飛行機の事故があったり、波乱の幕開けとなりました。この先、どんなことが起きるのか全く想像できませんけれど、自分としては人生の大きな節目を迎えるわけですから、良い意味で記憶に残るような年にできればと考えています。

さらに、釧路でそのような年を迎えるのも何かの縁だと思いますので一生忘れることのない思い出になるのではないかと考えています。

自分が今までやって来られたのは家族や友人、職場の仲間、そしてこのクラブのような職場を離れた皆さまのお付き合いなど、様々な出会いによってなされたものとして感謝しています。これからも謙虚な気持ちを忘れずに進んでいくことを胸に誓って私の年男のお話としたいのですけれども、最後に、私が勤めている電気保安協会の宣伝を少しさせて欲しいのです。テレビコマーシャルも放映しているのですけれども、あれだけではピンとこない方もいらっしゃると思い、ご説明します。

私どもの仕事は大きく分けて3つあります。一つ目は「保安業務」といって、皆さまが所有しているビルや工場の電気設備の点検、省エネルギーのご提案が主な仕事です。こちらのセンチュリーキャッスルホテルもうちの担当者が点検にお伺いしております。二つ目は「調査業務」といって、皆さまが住まわれているご自宅に漏電の調査にお伺いするのが主な仕事です。4年に1回、必ずお伺いすることになっておりますので、その際は嫌がらずにご協力をよろしく申し上げます。三つ目は「広報業務」といまして、電気の安全な使用についての周知活動、啓蒙活動となっています。ご要望があれば、自治体、企業の職員様に対しての電気安全講習会を開催しておりますので、機会があればお声掛けしていただければと思います。

最近ではスポーツを通じた広報活動で、プロのカーリングチームのスポンサーにもなっているのですが、ロコ・ソラーレが強いものですから、この知名度が低くて。名前が分からないのですが『フォルティウス』。旧北海道銀行のチームですが一回解散して、再度この名前で活動を始めたことでこのチームのスポンサーを次のオリンピックまで続ける予定であります。以上、簡単なPRをさせていただきました。今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

戸川 達雄君



それでは話させていたいただきたいと思えます。「年男」というお話をいただいて気が付いたのは、自分自身として自覚がなかったのですけれど、

気が付いてみますと60年、人生の半分以上を北海道で暮らすことになりました。東京出身なのですが北海道に就職して、気が付くと人生の半分以上を北海道で暮らすことになり、結婚して子どもも生まれて、子どもも育てていることで人生の節目として思い起こすと、北海道に来て良かった。私は暑いのが苦手なので東京などには戻れないかなと思いつつ日々を暮らしているのです。

私からは、私の会社にいるもう1人の年男をご紹介させていただきたいと思ってお伺いしたのです。人間ではないのですけれど、SL「C11 171」が冬の湿原号としていま走っているのですけれど、昭和15年生まれで、今年が辰年の84歳です。まさにSLも年男になっております。

84歳ですけれど、現場の第一線でお客様を乗せて営業運転をしているのです。正直に言って本当に苦労は絶えないのです。年男として活躍している雄姿を皆さまにもご覧いただきたいと思っています。

昭和15年7月19日に兵庫県で製造され、生まれまして、それから引退して標茶で保存していただいていたものを、2000年からもう一度運転して今に至っているのです。SLが運転しているのは北海道では釧路だけです。全国の中でもかなり数が少なくなっております。

先ほど、苦労も多いという話をしましたが、おとしは重篤な不具合が生じて一切運転ができない1年間がありました。去年も最終日くらいまではうまく運転できていたのですけれど、最終日に重篤な不具合が生じてから半年間、一生懸命に直してまいりました。そして、これで大丈夫と思った12月に標茶まで試運転をしていたところ、行は良かったのですが帰ってこ

れなくなってしまい、ディーゼル機関車に引っ張られて戻ってきました。それからは、どうして壊れたのかと直ちに直して、1月にどれだけ今年は無理ですと言おうかと思ったのですけれど運転ができるようになりまして、試乗会を1月に行ったところ、途中で止まってしまうました。今度は「蒸気が上がりません」ということで、なんとか直したつもりだったのですが、今週は毎日運転することになっていて、日曜日くらいから「蒸気が上がらず、後ろにディーゼル機関車を付けて運転させてください」となり、いまディーゼル機関車を付けて運転させていただいています。毎日の運転が月曜日までなので、その後3日間くらい運転しない日があるので、その間にもう一度点検してどうするかがあるのです。

点検するほうも、運転するほうも、苦労は絶えないのですけれども、それだけ大切なものだと思って運転をさせていただいております。運転するほうも、メンテナンスするほうも、若い社員がそれを見て「私もやりたい」と後継者が出て来ていますので、何とかSLを大切にしながら、釧路の風物詩としてずーっと、という訳には行かないかもしれないけれど、少しでも長く運転をしていきたいと思っていますので皆さま、SLの84歳・現役で働いている雄姿をどこかでご覧いただいで、乗っていただき、写真を撮っていただいでいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

以上、私の会社にいる年男のご紹介をさせていただきました。これからも皆さまにご指導をいただきながら、私たちもひとつずつ年を取らせて行きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。

今日はありがとうございました。

天方 智順君

皆さん、こんにちは。39年生まれのとりということですが、私、先月にめでたく還暦を迎えられたことができました。



川島さん、戸川さんよりも学年が上になりますので還暦の年に赤いチャンチャンコでなくて赤タスキの役目になるのも何かの縁かと思っております。

いいことばかりではないのです。実は39年生まれは、厄年なのです。実感しました。1月17日に対外的には嘘をついて「自宅の前で滑って転んだ」としていただいでいたのですが、実は自宅の階段、ラスト2段を踏み外して落下しました。左足首がグキッといったので、すごく痛いけど歩けるので骨は大丈夫かなと思っていつも行く鍼灸院に行って、折れてないと思ったら鍼灸院

の院長が荒治療をされて。どうしても痛いものですから改めて整形外科に行ったら、なんと折れていました。折れたまま1週間以上もウロウロしている自分も何なのかなと思っています。やっぱり、厄年のひとつかなと思います。

48歳の時、今の東堂さんのように私も12年前にはそういうスピーチをしたなと思っています、12年は早いです。あと12年、もう一回ここに立てるように頑張りたいと思います。

今日は、ありがとうございます。

本日のニコニコ献金

■天方 智順君 おはらいのつもりです。

今年度累計 395,000 円